有名、無名の友人達の多くは、もう鬼籍に入ってしまった。８０の坂を越えて進むのは容易なことではないのだ。

「この人をおくるまでは絶対に倒れてはならない」。

つよい決意で、大好きな般若湯（はんにやとう）も自主規制、まいにち毎日、スタンプでも押すような規則正しい生活だ。おそらく、こうした暮らしがなかったら、わたしの長生、長寿はなかったに違いない。

精神面での進歩もあった。

以心伝心の世界では、心耳が必要だし、事実をありのままに見る柔軟な視点が大切になる。だから、聞く耳は大きくなったし、他人をみる目もやわらかくなった。また、「老いては子に従え」と言うが、頑固をやめて、異なる意見にもしっかり耳を傾けるようにもなった。

老々在宅介護のたたかいの成果は豊かに実っている。

（１９７８／１２、蜷川邸訪問）

介護は、人間だけの営みである。

介護は、人間にだけある生活現象である。

介護は、人間の矜持（プライド）そのものである。

だから、犠牲的奉仕の負担も、孤独の闇も、共生の悦びと生きがいに転化する。

京都・東山の清水寺境内には、

「道はただ一つ　その道をゆく　春　虎三」

と、書いた石碑が建っている。

これは、京都府知事として７期２８年、「憲法を暮らしの中に生かそう」を、基本スローガンに、歴史的業績を残した蜷川虎三（にながわとらぞう）（１８９７～１９８１年）さんの記念碑である。

わたし達も、「トラさん」の名句にあやかって歌いたい。

「道はただ一つ　介護の道をゆく　春」。